



法政大学
HOSEI University

小金井キャンパス教職課程センター通信

「こがねい」

西館 B1 kkck@ml.hosei.ac.jp

NO.4 2025/6/17



教育実習を終えて

教育実習を終了した学生が、教職課程センターを訪れ始めています。教育実習の日々は、自分が生徒の頃の日々とは違った風景が見えたようです。今の教育の方策・手立てとそれによる生徒の目・声などの表情や発言などの動作の変容に驚き感動した場面は忘れないことと思います。また、自分の未熟さに恐れおののいた場面もあったようです。

”今です！” この心を動かす体験こそが、人を育てるのです。メモを残しておきましょう。そして、結果だけを注視するのではなく、その目的や背景、課題や問題、方法や対策、自分事として捉えた時に今の自分と未来の自分の行動などを考えてみましょう。一番身近な教材です。

教師への道を自信をもって進もうと決意できた瞬間もあり、自分は教師に向かないのではないかと思知らされた瞬間もあった実習でしょう。けれど、この実習は、いわゆる“お客様”扱いに過ぎません。学生の皆さんにとっては、初めての経験で、長く疲労した3週間だったでしょう。でもたかだか3週間なのです。

「自分が〇〇（職業）に向いているのかわからない」と進路に悩む生徒がいます。

私は、「天使が舞い降りて、これがあなたの天職ですよ、なんてささやく日は一生来ない。なりたい自分に自分になることをあきらめない！失敗しても改善し続けられた人が成功者になる！」と伝えてきました。自分がやってみたいと思える・興味があるなら、それは自分のアンテナに引っかかった職業です。向いているかどうかは、やってみないとわからないし、続けてみないとわからない。生徒が多様ならば、教員も多様であるほうがいいのです。成長していく自分を励まし期待していこうではないですか。失敗を恐れずに挑戦していく熱意とともに！

失敗は成功へのプロセスだと考える(スティーブ・ジョブズ)

今日の失敗は、工夫を続けてさえいれば、必ず明日の成功に結び付く(豊田 喜一郎)

ファイマン：色々ヒントがあります

「なぜデカルトは虹を研究したと思う？虹を美しいと思ったからだよ。」

「高校生レベルの知識層に説明して伝えることができないければ、その人は科学を理解しているとは言えない。」

これらはリチャード・フィリップ・ファイマン 1965年にノーベル物理学賞を受賞したアメリカの物理学者の言葉です。彼は、物理の功績の他、難解な事柄をわかりやすく説明するのにとても長けていたことで有名です。その彼の思考方法ファイマンメソッドが今注目されているのです。言語表現の大切さがわかります。

- ①テーマを明確に具体的にする
- ②テーマについてわかっていることを書く
- ③曖昧なことは調べて書き足す
- ④出来上がった説明文をさらに簡単にして、人に説明する

これは主体的対話的学習、探究学習のフィードバックの場でも大いに注目されているのです。

もう一つファイマン、「僕は疑いや不確かさを持ったまま、そして答えを知らないまま生きられるんだ。まちがってるかもしれない答えを持つより、答えを知らないで生きるほうがよっぽどおもしろいよ。」つまり、安易なテーマでなく、結論がわからないを探究して楽しむは探究学習に通じます。物理学者ですものね。

自分の考えていることは分かっているがそれを表現できないという人は、たいてい自分の考えていることを分かっている。モーティマー・アドラー(「嫌われる勇気」著者)

採用試験に向けて 6月7月

首都圏の教員採用試験は、7月6日（日）と半月余りと迫ってきました。また、2次試験は8月中旬です。一次試験の発表から2次試験の準備をするのでは到底間に合いません。単に小論文の書き方や面接のルールの準備だけでは、この難関は突破できません。以前にも書きましたが、一般企業への就職活動と何ら変わりはないのです。採用者は、あなたが、賢いだけではなく、豊富な知識を持っているだけではなく、熱意を持っているだけではなく、それらをどのように発揮していける人なのかを知りたいのです。

【調べ理解し整理すること】 就職したい自治体（企業）は、どのような目標理念を掲げているのか。
そのためには、どのような方策を講じようとしているのか。
どのような人材を求めているのか。

【簡潔に伝えること】 なぜ自分がこの自治体（企業）を選んだのか。
この自治体（企業）で何をどのようにしたいのか。
そうしようと思った、できると考えた理由、根拠な何か。
あなたはどのような人間なのか。

小論文実践練習

これまで、過去問題を中心に小論文の添削を実施してきました。

ここまでは、既定の字数制限を目標に、自治体の施策発表文やこれまでの添削小論文等を参考にし、誤字脱字についても調べながら、一人の環境で書いてきました。同じテーマも練習してきました。

しかし、本番は、何も見ることはできません。周囲には人がいて、鉛筆の走る音がします。消しゴムで消す音も気になるでしょう。何より、初見問題と制限時間内にそのテーマと対峙し、テーマの背景について考え、教育観と手立てを述べなければなりません。

練習あるのみです。初見テーマ4つを作成しました。

6月23日（月）25日（水）26日（木）30日（月）の4日間、集団で、志望する自治体指定の制限時間・制限字数で書き上げます。そして、それぞれで読みあい、フィードバックしていきます。

この緊張と刺激が、最後の頑張りの後押しとなることを期待しています。

外部講師による面接指導

並行して、面接練習も行います。

まずは、教職課程センター指導員が面接官となって、最低2回ずつは行います。

次は、面接官経験者による外部講師を招聘して、7月24日（木）に面接会場を2会場設置し、それぞれ2会場での面接練習を行います。建設間による講評だけでなく、自分自身の課題についても明確になるはずですよ。

本番の面接は最後まで、うまくいかなかったかなと思っても、決してうだれないこと！後で勉強すればいいのです。顔を上げて、これまで頑張ってきた自分を誇りに思い、背筋を伸ばして笑顔で挨拶してきましょう。

7月のTRY

① あなたはどのような教員になりたいのですか。(70字)

誰かを目標にするのはNG 教育観や姿勢

② どのような人間を育てたいのですか。(70字)

結局①と②はリンクします。

小論文の最後の決意文であり、面接カード・面接必須の間でもあります。あなたを売り込む絶好の機会です。ファインマンメソッドを用いて簡潔かつあなたの熱意が伝わることばで文章を作って下さい。

左斜め上を見上げて、覚えてきたことを話すことほど、これから一緒に仕事をしようとする面接官にとって頼りないことはありません。暗記するのではなく、何度も書いて、人に話して、自分のことばにしましょう。